

# 「新郷土資料館基本構想(素案)」 ご意見を募集します

## ■ 趣旨等

市では、八王子市郷土資料館の基本構想策定に向けた検討を進めています。  
このほど、その基本理念などを整理した、「新郷土資料館基本構想(素案)」がまとまりました。

市民や地域に広く開かれ、未来へ向けて成長し続ける博物館を実現するために、ご意見を募集します。

(新郷土資料館整備予定地である八王子医療刑務所移転後用地活用計画は、下記サイトをご参照下さい。)

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/seisaku/machidukuri/046020.html>

## ■ 意見の提出について

### 〈提出できる方〉

市内在住・在勤・在学の方、市内に事務所等を有する個人・法人・その他の団体

### 〈提出期間〉

平成28年12月10日(土) から 平成29年1月15日(日) まで 〈必着〉

### 〈記入事項〉

案件名(『「新郷土資料館基本構想(素案)」について』と明記してください)、  
ご意見とその理由、住所、氏名、市内在勤・在学の方は勤務先・学校名と所在地を  
ご記入ください。

※様式は自由です。本冊子又は市のホームページに掲載の様式もご利用いただけます。

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisetsu/28254/028261.html>

### 〈提出方法〉

直接(持参)、郵送、FAX、Eメールにてご提出ください。

※提出先は4ページに記載されています。

## ■ 素案の閲覧場所

郷土資料館、市役所7階 文化財課、市役所1階 市政資料室、各事務所・市民センター・  
図書館、市のホームページ

## ■ 結果の公表

ご意見は、市の考えとあわせて、出来る限り内容を反映し、後日公表します。

なお、個別の回答は行いません。

〈問い合わせ先〉 八王子市郷土資料館 電話:042-622-8939 FAX:042-627-5919

■八王子市郷土資料館の概要

- (1) 開館日 昭和42(1967)年4月1日
- (2) 所在地 東京都八王子市上野町33
- (3) 施設規模等 敷地面積:1,198㎡  
延床面積:1,507㎡



■八王子市郷土資料館の課題

テーマ	課題
施設	老朽化が進み、各室の面積が不足しており、アメニティ空間やバリアフリー対応が必要。
利用者数	年間利用者数が減少しており、利用者の増加対策が必要。
収蔵環境	現在の収蔵庫は約10万5千点の収蔵資料数に対して収蔵庫が不足しており、将来に向けた収蔵スペースの確保と収蔵環境の改善が必要。
調査・研究	調査研究の成果活用分野を刊行物や展示、講座などから広げることが必要。
展示・公開	常設展示の魅力向上が必要。
教育・普及	学習支援のスペースや運営体制の確保と小中学校の利用促進が必要。

■新郷土資料館の整備予定地と今後のスケジュール

(1) 整備予定地

将来昭島市へ移転予定の八王子医療刑務所の移転後用地に、整備することを予定しています。  
※アクセス:JR八王子駅と京王片倉駅からそれぞれ徒歩約10分



(2) 今後の予定

基本構想策定後、29年度に基本計画を策定します。  
その後、具体的な整備・展示・運営などについての検討を進めます。

■新郷土資料館の基本理念

八王子の歴史・文化を探求し、広く継承・発信するとともに  
未来へ向けて市民・地域との協創(※1)を育む博物館

■新郷土資料館の基本方針

1.八王子の歴史・文化の特色を探求する博物館	これまでの調査・研究の実績を受け継ぎながら、地域の資料の収集・保管、調査・研究を行い、八王子の多様な特色を探求します。	集める	収集・保管活動の強化
		探求する	調査・研究活動の強化
2.八王子の歴史と伝統文化を広く継承し、郷土を学び愛着を育む博物館	八王子の歴史・文化の多様な価値や魅力を継承・発信することで、郷土について学び理解を深め、愛着を育む博物館を目指します。	伝える	展示・公開、教育・普及の強化
		支える	生涯学習や学校教育への支援
3.まちに開いた新たな集い・交流・回遊の拠点となる博物館	様々な利用者が憩える「サードプレイス(※2)」として、日常的に集い、交流するとともに市内への回遊を促す拠点となることを目指します。	開く	まちと人をつなぐオープンプレイス
		憩う	アメニティとユニバーサルデザインの充実
4.市民・地域とともに協創し、成長する博物館	市民や地域、大学、企業等との多様な連携・活動を通じて、次の100年を共に考え、市民・地域とともに成長する博物館を目指します。	協創する	多様な主体との協創体制の構築
		つながる	市内外の関連機関とのネットワーク化

※2 サードプレイスとは:第一の居場所である「家」をファーストプレイス、第二の居場所である「職場や学校」をセカンドプレイスとし、それとは異なる居心地の良い第三の居場所と考えています。

※1 協創とは:この基本構想では、問題を解決(目標・目的を達成)するため、みんなで協力し力を出し合うこと、新しい取り組みを行うことと定義しました。  
新郷土資料館に集まる人たちが力を合わせることによって、良い意味で当初の想定から事業範囲を超え、拡大・発展させることを協創と考えています。

■新郷土資料館の方向性

博物館の4つの基本機能とともに、集い・交流、協創、レファレンス・ガイド、ネットワーク機能を博物館機能として位置づけ、既存の施設の活用も図りながら実現していきます。

<基本機能>

- (1) 収集・保管機能: 資料を収集、整理、保存・修復、管理し、未来に継承します。
- (2) 調査・研究機能: 調査研究体制の強化により、地域の魅力発信を行い、利用者の学習・研究活動にも寄与するための基礎を作ります。
- (3) 展示・公開機能: 効果的な展示手法を導入し、調査・研究の成果を広く発信します。
- (4) 教育・普及機能: 所蔵資料や研究成果の活用を図るとともに市民や子どもたちの生涯学習や学校教育の支援、出張講座などの館外の活動を充実します。

<新たに取り込む機能>

- (1) 集い・交流機能: だれもが気軽に立ち寄り、学び、交流できる場や機会を提供します。
- (2) 協創機能: 市内の多様な主体と連携し、八王子の次の100年をともに考え、地域ブランドの発信・継承等、幅広い分野で協働事業を実施します。
- (3) レファレンス・ガイド機能: 利用者の要望に柔軟に対応できる機能を整備します。また、市内の文化財や観光名所を案内します。
- (4) ネットワーク機能: 市内外の博物館や歴史的資源、大学、学校教育との連携強化を図ります。

